

被災×社会的弱者
被災後の地域において“食べる”を守る ―東日本大震災から6年を迎えて―
(2017. 4. 2(日)10-12時 南阿蘇村陽ノ丘荘)
まとめ

参加者: 23名

歯科医師・歯科衛生士	6	介護士・介護福祉士	6
看護師	4	管理栄養士・栄養士	2
事務	2	ケアマネ・福祉士	1
報道・写真家	2		

アンケート回答者: 12名

職種: 歯科医師・歯科衛生士	3	介護士・介護福祉士	6
看護師	1	管理栄養士・栄養士	1
報道・写真家	1		

年齢: 20歳未満 1名・20歳代 4名・30歳代 3名・40歳代 2名・60歳代 2名

性別: 男性 3名・女性 9名

<以下、保健医療関係職 n=11名>

1. 内容は、わかりやすかったですか？

わかりやすかった 11(100%)

2. 今回参加して、初めて知った内容がありましたか？

初めて知った内容があった 11(100%)

- ✓ 東日本大震災の時の生々しい映像。もちろんメディアを通して見聞きしては来ましたが、今回の映像は違った意味でリアルで、息をのみました
- ✓ 男の介護の重要性
- ✓ ボタンのつけはずしができると義歯のつけはずしができる
- ✓ 嚥下が悪い高齢者の方でも、様々な職種と連携して、食事形態を変えるだけで高齢者の状態がよくなっていくところ
- ✓ 言葉や食事の種類
- ✓ 男性を対象とした介護教室があるということ
- ✓ 食事はただ食べるだけではなく雰囲気や食べる物、食べ物の形態なども必要なのだと知りました
- ✓ 症例を通じたアプローチ方法
- ✓ ご遺体は歯型で誰かと判別がつく。歯科、口腔の面が被災地にとっても重要ということ。

3. 今回の内容は、今後の生活や業務に活かそうですか？

活かそう 10 (91%) わからない 1(9%)

- ✓ 食べる輪について、一機に展望なくゴールなく、やみくもに行っていたため、3段階の年間目標がいいなと思った
- ✓ 食事後の口腔ケアの大切
- ✓ 食事の工夫
- ✓ 食事が入らない方への対応
- ✓ レベルが落ちている方でも、多職種の人たちの協力や働きかけで食べるというレベルがあがってくる
- ✓ 多職種との連携を通し家族とかかわっていく
- ✓ 簡単に蒸しパンができる。ゼリーがダメならろみにして大きく変わることを。

4. 普段、地域で、嚥下障害の問題のある患者さんの相談をできますか？その相手をお教えてください。

相談できるところがある・相手がいる 4(36%) 相談できるところ・相手はいない 5(45%)

- ✓ スタディグループの中間に相談することが多いが、MRI や CT、既往などまで、、、理論は相談して解決しやすいが、ひとりひとりのケースはむずかしい
- ✓ 訪問歯科 Dr

5. 普段、多職種で食支援を行うさいに歯科関係者(歯科医師、歯科衛生士)が関わっていますか？

はい 7(64%) いいえ 2(18%)

6. 多職種で食支援を行う際に、歯科関係者(歯科医師、歯科衛生士)にどのような事を望みますか？

- ✓ DDrへ。よりかめる義歯。清掃性のよい補綴や重点などの口腔環境の整備。DH に対して、DDrから口腔リハについての指導、食形態の指導。
- ✓ 義歯の洗い方、口腔ケアできない状態でもできる口腔ケア
- ✓ 食事の時にみてほしい。その時みたことをアドバイスしてほしい。

7. 震災後、食について、困ったことや悩みはありましたか？

食について困ったことや悩みがあった 8(73%) 特別に困ったことや悩みはなかった 2(18%)

- ✓ 避難生活が長くなるにつれ、新鮮なものを食べたいという要望への反応
- ✓ デニッシュチョコレート、板チョコパンなどしか、老健にも来なかった
- ✓ 食事の形態、お皿
- ✓ 施設での食事形態、賞味期限(冷蔵庫が使えないため)
- ✓ 子どもが食べるもの

- ✓ 地震直後の食事提供
- ✓ 禁食がある方の対応。一つの食べ物しかない方の対応。
- ✓ 食料はあっても形態をあわせるのが難しかった

8. 災害後には、外部からの食の支援は必要だと思いますか

はい 11(100%)

- ✓ 嚥下食、こどもなどへの食事、障害がある方(偏食)ある方にも必要
- ✓ 食べ物がなくなるから支援は必要だと思う
- ✓ 災害時の食事の確保が難しいため
- ✓ 災害の経験がないので、いろいろなことを知っている方にアドバイスをいただくのはありがたい
- ✓ 外部からの支援がなければ、毎食同じ物を食べないといけなかった
- ✓ 外部からの支援がなければ食の支援は難しい

9. 今後、災害時を含め、地域で”食”をどのように守っていくべきか、ご意見があればお書きください

- ✓ 災害時の誤嚥性肺炎予防の観点からも平時の食支援の輪を作っておく必要がある
- ✓ ひとりひとりに合わせた「心ゆたかな食」。それを歯科衛生士として環境を整え、多職種と連携していきたい。
- ✓ 備蓄強化する

10. 多職種連携による食支援の研修会を行う際には、どのような形態が良いと思いますか？(複数回答可)

講演 9(82%) 実習 8(73%) 症例検討 10(91%)

11. 今後、研修会でとりあげて欲しいテーマがあれば、お教えてください(複数回答可)

各専門職による食へのアプローチ 7(64%) 食品・物品などの紹介 7(64%)

- ✓ 実際に災害が起きた時に活用できること、対応方法